

京都学習協の第14回集中セミナー 募集要項

申し込みは、このテーマを学びたいと思う方は誰でも参加できます。

申し込みの手続きは、簡単です。「申込書」に必要事項を記入し、受講料をそえて申し込んでください。FAXでも申込みができます（受講料は当日お支払いください）。

講義時間は、午後1時～5時
（休憩も含まます）
受講料は、2,500円です。
（税込み）

会場は、
京都市職員会館 かもがわ 2階 大会議室（中京区土手町通夷川上る末丸町）

申込先は.....
京都労働者学習協議会
〒602-8147

京都市上京区堀川丸太町西一筋目上ル『京都学習会館』内 電話(075)841-8141 FAX(075)821-3665



2010年代最大のテーマ
日本の労働者階級最大の組織
「労働組合」その組織と運動発展の真髄（理論）を学ぶ。

講師：戸木田義久・立命館大学名誉教授
日時 2010年5月9日（日曜日）13時～17時
会場 京都市職員会館 かもがわ 2階 大会議室
受講料 2,500円

科学的労働組合論 社会主義の

京都学習協の
第14回集中セミナー

申込先は.....
京都労働者学習協議会 〒602-8147京都市上京区堀川丸太町西一筋目上ル『京都学習会館』内
電話(075)841-8141 FAX(075)821-3665

京都学習協の第14回集中セミナー 申込み日時			年	月	日
フリガナ			性別		年齢
氏名:			男・女		才
現住所:					
職場・学園:					
労働組合名:	(全国単産名:)				
電話: 職場()			自宅()		

【学習資料】

科学的社会主義の立場から、系統的な形ではじめて展開された労働組合論の定式化

ジュネーブ大会の議題

インタナショナルの最初の大会は、創立集会から二年たった一八六六年九月、スイスのジュネーブで聞かれました（九月三日～八日）。マルクスは、大会には出席できませんでしたが、大会前の七月の中央評議会で、大会で予定している議事の全項目について報告をおこない、それが承認されました。全集に「個々の問題についての暫定中央評議会代議員への指示」として収録されている文章は、この評議会のあとでマルクスがその報告をまとめたもので、大会では、この「指示」が、評議会の公式の報告として読み上げられました。

「指示」は、（一）国際協会の組織、（二）労資の闘争における、協会の仲介による国際的協力、（三）労働日の制限、（四）年少者と児童（男女）の労働、（五）協同組合労働、（六）労働組合。その過去、現在、未来、（七）直接税と間接税、（八）国際的信用、（九）ポーランド問題、（一〇）軍隊、（一一）宗教問題、の十一項目からなっていました。（八）と（一一）については、「提案はフランス人にまかせる」とあるだけですが、これは六五年九月のロンドン協議会で、フランス人の主張により独自に組み込まれた議題でした。 略

労働組合に関する決定

次の「労働組合。その過去、現在、未来」は、科学的社会主義の立場から、系統的な形ではじめて展開された労働組合論の定式化で、多くの点で現代にも通じる内容を持っています。

表題の通り、全体が三つの部分に分かれています。

「（イ）その過去」。ここは、資本と労働者とのあいだの基本的な関係から説き起こして、労働者階級の闘争におけるこの組織の役割についての歴史

的および原理的な説明で、その中心は、次の二点です。

（１）「指示」は、まず、労働組合が、よりよい契約条件をたたかいとろうとする労働者階級の自然発生的な試みから生まれたものであること、こうして、労働組合が、賃金と労働時間をめぐる団結と闘争の組織として生まれたのは、正当かつ必要な活動であり、現在の生産制度が続くかぎり、この活動なしにすまずことはできないこと、したがって、この活動は、あらゆる国で広げなければならないことを、指摘します。

大事なことは、「指示」が、そこにとどまらず、労働組合の歴史的な役割をより広い視野で明確にしていることです。

（２）労働組合は、こうして、この組織が「労働者階級の組織化の中心」であることを実証してきたのであり、それは、現在の「資本と労働とのゲリラ戦」にとって必要であるだけでなく、将来、「賃金と資本支配の制度そのものを廃止するための組織された道具」として、さらに大きな役割をになうようになる、という点です。

「（ロ）その現在」。この視野から、「指示」は、イギリスなどの労働組合運動の現状を吟味し、現在の弱点は、賃金奴隷制そのものに反対する行動での自分の力を十分に理解しておらず、そのために「一般的な社会運動や政治運動からあまりにも遠ざかっていた」点にあることを、率直に批判し、その状態からぬけだそうという傾向がいくらか現われていることを歓迎しています。

「（ハ）その未来」。ここで、「指示」は、運動の今後の発展のための一連の助言と勧告をおこなっています。中心点は、「労働者階級の完全な解放という広大な目的のために、労働者階級の組織化の中心として意識的に行動すること」を学ぼうという呼びかけです。

「指示」は、その呼びかけのなかで、この方向をめざすあらゆる社会運動と政治運動を支援しなければならない、としています。この段階ではまだ、社会主義をめざす労働者の政党は存在していませんから、政党の問題を論じるどころまではすすんでいません。この問題に、インタナショナルはより後の時期（一八七一～七二年）に取り組むこととなります。

（不破哲三著「マルクス・エンゲルス 革命論研究」新日本出版 p304-309）